

四国医療工学専門学校

学校新聞3月号 学校の行事や魅力を毎月お届けします！

頑張る学生コーナー	1
臨床工学技士国家試験	2
卒業証書授与式	2
医療情報学科実務演習I	2
日商簿記検定3級	3
春季ME講座	3
オープンキャンパス	3
高等学校での医療体験	3



頑張る学生をご紹介します！

川田 ララさん

高知県立伊野商業高等学校 出身
(写真左)

明神 眞奈さん

高知県立春野高等学校 出身
(写真右)

今回は、医療情報学科1年生の川田 ララさんと明神 眞奈さんにインタビューしました。川田さんと明神さんは医事コンピュータ技能検定試験3級において全国成績優秀者として表彰されました。

そんな頑張る川田さんと明神さんに、いくつかの質問をしました！

Q & A

Q1 医事コンピュータ技能検定試験に合格するためにどのように勉強した？

川田：放課後に残って問題を解いたり、間違えたところを先生に教えてもらったりしました。

明神：授業中にしっかり覚えて、分からないことは先生に質問するようにしました。

Q2 好きな科目とその理由は？

川田：コンピュータ基礎知識です。理由は高校の時にワードやエクセルをしていたので、学んだことを活かせるからです。

明神：簿記です。高校に入ってから始めたのですが、計算が得意で覚えやすかったのでどんどん進めることができました。

Q3 医療事務を志したきっかけは？

川田：高校の先生に勧められたことがきっかけです。そして新型コロナウイルスなどの影響で病院が忙しく、私も何かできたらと思ったことが理由です。

明神：私は親戚3人が医療事務をしており、仕事の話を聞いて「私もなりたい」と興味を持ちました。また、知り合いに本校の卒業生がいて勧められ、オープンキャンパスに参加して良い学校だと思いました。

Q4 入学後苦労したことは？

川田：検定試験が複数あるので、同時進行で勉強しなければならないことに苦労しました。

明神：アルバイトと学業を両立することに苦労しました。

Q5 本校の良いところは？

川田：先生と生徒の距離が近いことがいいところだと思います。
明神：医療機器が多くあり、いろんな経験を積むことができます。また、先生から様々な経験談を聞くこともいいところです。

Q6 これからの目標は？

川田：就職してからのことを見据えて、言葉遣いやマナーを身につけたいです。

明神：検定試験を頑張って合格したいです。また、実習でしっかりできるように学んでいき、将来に活かせるようにしたいです。

Q7 高校生に向けて一言

川田：思いついたらすぐ行動するといいいと思います。

明神：挨拶は大切です。高校生活を目一杯楽しんでください！

Q8 実習に向けた意気込みは？

川田：とても緊張しています。親切な気持ち、思いやりを持って患者さんと接したいと思います。

明神：基礎的なことを中心に学んでいきたい。患者さんの不安を和らげられるように笑顔で接することを心掛けたいです。

(記者：赤嶺)

日商簿記検定3級を受験

2月26日、高知商業高等学校にて医療情報学科1年生が日商簿記検定3級を受験しました。日商簿記検定3級はビジネスに関わる人が身に付けておくべき『必須の基本知識』として、多くの企業から評価される資格です。基本的な商業簿記を修得し、小規模企業における企業活動や会計実務を踏まえ、経理関連書類の適切な処理を行うために求められるレベルとされています。

受験した学生に話を聞いてみると、「少し難しかったです。」「練習した問題とは問い方が異なっていたものが多かったです。」とのこと。手応えを聞いてみると、「合格の可能性は50%ですが結果を待ちたいです。」と話してくれました。「高等学校の時から簿記をしていてお金の計算が好きです。」と話してくれる学生もいました。

(記者：赤嶺)

臨床工学技士国家試験を受験

3月5日、大阪の森ノ宮医療大学にて臨床工学学科3年生が第36回臨床工学技士国家試験を受験しました。

前日には教員らの激励に見送られて高知を出発しました。途中の淡路SAでは名物ラーメンを食べて元気いっぱいになり、明石海峡のきれいな景色に癒されました。試験当日の朝はしっかりホテルで朝食を取り、会場に出発しました。会場に入る前には全員で円陣を組み、気持ちを高め合いました。まずは、体調不良なく全員が受験できたことが何よりも嬉しいです。

受験した学生に後日話を聞いてみると、「まずは終わったことに安堵の気持ちが大きいです。」とのこと。「結果が待ち遠しいですが、今は就職に向けて準備します。」と先を見据えて話してくれた学生もいました。臨床工学学科の学生にとって国家試験は3年間の集大成となる試験です。机にかじりついて勉強していた3年生皆に、合格の花が咲くことを祈っています。

(記者：赤嶺)

春季ME講座を開講

臨床工学学科

3月8日から17日にかけて、臨床工学学科の1、2年生を対象に春季ME講座を開講しました。

ME講座とは『ME技術実力検定試験』の対策講座で春と夏に行っています。

『ME』とはメディカルエンジニアリング (medical engineering) の略で、『ME技術実力検定試験』は医療機器の安全管理を中心とした専門知識と、実際に医療に应用できる技術を証明する民間資格です。国家資格の臨床工学技士とは別に、本校では在学中にこの資格の取得を目標としています。ME技術実力検定試験は年に1回開催されています。第二種ME技術実力検定試験は、医療機器の保守や安全管理に関する基礎知識と技術を測る内容になっており、臨床工学技士養成校の多くの学生は在学中に受験します。臨床工学技士国家試験と似たような内容なので、この検定試験が国家試験を受ける前の自分の実力を知る目安になります。

この講座では、MEに合格するための勉強方法を分野ごとに担当教員が丁寧に説明します。受講した学生は、「ME過去問試験が予想以上に難しくショックを受けたので、これから勉強を頑張りたいです。」と決意を新たにしました。一方、「座学よりグループワークが楽しかったです。」「皆で学べる環境が良かったです。」とのこと。さらに、「先生方に教えていただき、やるべきことがわかってきました。」と今後活かせる発見があった様子でした。

(記者：赤嶺)



高等学校での医療体験出張講座

医療情報学科

臨床工学学科

高知県内の高等学校に、本校の教職員が出向き、医療職の体験講座を開講しました。

当日は、1・2年生を対象に、穿刺（注射）・電気メス・心電図モニター・エクモ・除細動器・医療費計算・医療ソーシャルワークなど、様々な医療職の体験ブースを設けました。除細動器の体験では、上手く出来ずに戸惑っていた生徒さんが、先生がわざと上手くいかない設定にしていたとのネタばらしを聞き、ほっと胸をなでおろす場面も。また、姉妹校の高知福祉専門学校の教員による医療ソーシャルワーク体験では、色々なケース毎にどのような対応策があるのかをみんなで考えたり、新型コロナウイルスに関する講話には、全員興味深そうに耳を傾けたりと、充実した講座となりました。

医療体験出張講座は、今後も高知県内外の高等学校で開催していく予定です。

(記者：野村)

【3月に医療体験出張講座を開講した高等学校】

佐川高等学校／高知丸の内高等学校



卒業証書授与式を行いました

3月15日、本校8階すみれホールにて卒業証書授与式を行いました。

当日、学校近くの桜の木はまだ蕾でしたが、雲一つない快晴。学校中が卒業生たちの笑い声とともに華やかな雰囲気になりました。最後の授業から卒業証書授与式までしばらくぶりでしたので「久しぶりやね、写真撮ろう！」「元気やった？袴姿きれいやね！」と卒業生たちも友人との再会を喜んでいる様子でした。いざ式典が始まると敵かな雰囲気になりましたが、卒業生皆がとても堂々としていたことが印象に残りました。

式典後、卒業生に話を聞いてみると、いろんな話が聞けました。

「コロナがずっとあったけど、友人がいたので楽しめました。」「人生で一番勉強しました。」「卒業まで支えてくれたお母さんに感謝したいです。」「これから新しい気持ちで、就職先で頑張りたいです。」それぞれ思いは違いましたが、皆が本校での思い出を胸に前を向いて歩もうとしている印象を受けました。

今回の卒業証書授与式では、『四国医療工学専門学校奥立ち応援プロジェクト』を初めて行いました。教職員と在校生が協力して、卒業生に向けたエールの言葉を載せたポスターを作り、当日ポスターを会場に貼り巡らせるというものです。エールの言葉はユーモア溢れるものから感動的なものまで多岐にわたっており、それぞれに思いが込められていることが伝わってきました。卒業生や保護者の方々も時折写真を撮りながら、一つひとつのポスターに見入っていました。

たくさんの経験をしたからこそ、きっと誰よりも優しい医療人になれると思います。卒業生が様々な舞台で活躍することを期待したいと思います。

(記者：赤嶺)



オープンキャンパスを開催

3月21日、第13回オープンキャンパスを開催しました。

体験授業として、医療情報学科では『外来クラークの仕事体験！』というテーマで、病院の顔とも言われる受付で医療事務がどのような仕事をしているか、在校生によるデモンストラーションを見ていただきました。また、診察室に見立てたブースで『血圧測定』と『穿刺』を臨床工学学科の先生からレクチャーを受け実際に体験してもらいました。参加した高校生によると「医療事務としての知識だけでなく、医療全体の必要なことも実際に教えていただけることに興味をもちました。」とのこと。一方、臨床工学学科では、『臨床工学技士について(人工透析編)』というテーマで、臨床工学技士の主要な業務である人工透析を実際の機器を使って体験していただきました。オレンジジュースを血液に見立てて仕組みを説明したことで、参加した高校生からは「オレンジ色から透明に変わっていくのを見てびっくりした。」と驚きの声が上がっていました。

今回のオープンキャンパスでは、姉妹校である高知福祉専門学校が合同でスペシャルスタンプラリーを開催しました。医療情報学科では、『水中コイン落とし&ダンボールフリスビー』臨床工学学科では、『気軽にアハ体験』という内容で、在校生が考えた遊びに参加していただき、ポイントに応じて『お菓子のつかみ取り』をしていただきました。参加した高校生からは、「学校の雰囲気がとても良くて楽しかった。」「在校生と交流ができて嬉しかった。」といった声が聞かれました。さらに昼には軽食としてキッチンカー『LIGGURRI(リグーリ)』様にご協力いただき、マリゲリータや桜(白あん)のピザとドリンクを提供していただきました。本校では、こうした姉妹校と連携した取り組みを積極的に行っています。

(記者：赤嶺)



実務実習Ⅰ 医療情報学科

3月13日から25日にかけて、高知県内の病院にて医療情報学科1年生が実務実習Ⅰを行いました。この実習は、実践的な対応と確かな技術を身に付けると同時に、医療人としての資質を身に付けることを目的に2週間実施しています。具体的には、患者様や職員と接する際の心得やマナーを学びます。また、患者様の受付や呼び出し、保険証の取り扱い、カルテ検索、電話対応などの実務を中心に学びます。以下は実習中の学生の様子です。

【下司病院・明神 眞奈 さん】

受付票の受け取りからカルテ探しまで、主に受付業務を担当していました。

本人に話を聞いてみると、「アルバイトの経験が活かされています。」とのこと、接客面で共通する内容があったようです。また、「できる限りいろんな経験を積みたいです。」と力強く語ってくれました。病院の実習指導者様の話では、「多くの仕事を任せられています。」とのこと。笑顔で実習を行えている様子でした。

【愛宕病院・森光 叶 さん】

主に受付業務を担当していました。

本人の様子を聞いてみると、「職員の方を見ているだけでもとても勉強になります。」と実習中に学ぶことがたくさんある様子。また、「周りを見る力、気づく力が大事だと思いました。」と話してくれました。

【海里マリン病院・出羽 みなみ さん】

主に受付対応として、挨拶や保険証の確認、カルテ検索を担当していました。

本人によると、「医療事務の一日の流れを知れたのでよかったです。」とのこと。また、「自分が実際に働いている時の事を、実習前より想像できるようになりました。」と将来のイメージ作りに役立ったようです。実習指導者様によれば「すごく頑張ってるよって聞いています。」とのこと。患者様から頂いた四つ葉のクローバーをうれしそうに見せてくれたのが印象的でした。

(記者：赤嶺) 3